

本校及び学区の様子

1 本校の概況

(1) 成章書院の歴史から

当地域には旧藩時代、武士の子弟教育を目的とした成章書院があった。成章書院は寛政5年（1793年）8月3日秋田の学館（明徳館）の申し渡しにより創設され、人事、指導監督、学習指導及び学業試験等が実施された。「成章」の語は「論語」公冶長第5から採られたものでその意味は「孔子言わしむれば『狂簡にし、斐然として章を成す中道の人なれ』『意欲的で志が大きくあやのある人間形成』」という意味である。明治7年5月27日その書院跡に成章小学校が創設された。古くから教育熱心な地域で、現在も多くの人材を輩出している。また、これまで地域をあげて学校教育を盛り上げ、数々の実績を残している。平成26年にはキャリア教育優良学校文部科学大臣賞を、28年には全国優良PTA文部科学大臣賞を受賞し、さらに、令和5年には学校安全文部科学大臣表彰を受けている。

「校章」は、三つ葉を形どり、それぞれ「知、徳、体」を表し、中央に「章」を形どる。成章小は「知徳体」の育成による人間形成の教育を目指し、三位一体による教育営為がなされること、児童たちは協力と友情を重んじることを象徴した。

令和6年に学校創立150周年、成章書院230年祭を迎え、10月6日には本校の卒業生でもある地域の方々と共に創立150周年記念集会を実施した。

(2) 校舎について

平成4年に現在地に新校舎が移転新築され新しい教育の創造を目指したオープンスペース等が導入された。この年の児童数は318名。

玄関ホールにある木造画は、旧校舎から移転する際の子どもたちの学校やふるさとへの思いを図案化したものである。伝統工芸の樺細工・杉細工によるもので、伝統工芸士栗盛俊二氏の作である。米代川や三哲山、秋田犬や比内鶏など、地域の自然豊かな風景、風物が表されている。材も技術も今では貴重なものである。



(3) 学区について

明治22年町村制により十二所（平内・大滝・別所・沢尻）、道目木、曲田、軽井沢（浦山）、猿間、葛原の6町村を併せ、十二所町となり、昭和30年3月31日大館市に合併した。JR花輪線に沿って大滝温泉、十二所、沢尻の3駅を擁し、また、東西に走る旧国道103号に沿って農村地域、温泉地域や住宅地域が点在している。児童は、徒歩や自転車、バス、車での送迎で通学している。学校の西側に隣接して建設された秋田県北部総合福祉エリアは、高齢者の居住、在宅福祉、世代間交流や生きがい活動の機能をもち、コミュニティーセンターも併設されている。また、放課後のふれあいセンターや知的障害援護施設もあり、これらを含めた諸施設等と連携・協力を図り、児童の健全育成の場、福祉教育や健康教育・ボランティア活動の実践の場として位置付けて様々な取組を行っている。また、学区の保育園や中学校とも連携した教育活動を行っている。

2 児童、家庭、地域の様子

児童は地域と関わりながら学ぶことや地域のために活動することに喜びを感じている。家庭は学校教育に理解があり、学校行事やPTA活動には多くの保護者や祖父母が参加している。また、地域住民や地域の施設は、体験活動を快く受け入れてくれるなど、とても協力的である。

児童は学習にまじめに取り組み、目標に向かって努力する。しかし、全体的に自ら課題を見つけて解決したり、自分の考えを説明したりすることが苦手な傾向がある。また、相手の気持ちや立場を考えない言動をにより、友人トラブルになることも少なくない。